

暖地におけるイネ縞葉枯病の防除に関する研究

第 5 報 普通期栽培における苗代の防除効果

上原等・佐藤芳久

普通期栽培の苗代感染を防ぐ耕種的対策としてのやや厚まき少 N 処理は、苗の生産性としては後向きの方策ではあるが、本病の苗代感染の多い本県ではむしろこのことが本病防除上有効であり収量的にもすぐれていた。反対に薄まき多 N 処理は苗代感染がとくに多く、本田の植付本数を増加しても実害はカバーされず収量が劣った。マラソン乳剤 1.000 倍 5 回散布による薬剤防除は少面積の苗代でも第 2 回成虫の生息数を少なくし、苗代感染の防止に有効であり、薄まき多 N 処理の多発条件下でも十分効果がみられた。